

国民生活産業・消費者団体連合会

生団連会報

2024年12月 VOL.62

活動報告

- ・埼玉県 宅配を1回で受け取ろうキャンペーン
- ・ジェンダー主流化 第2回企業分科会4日目 開催
- ・第1回 ジェンダー主流化委員会 開催
- ・新・災害対策委員会×エネルギー・原発問題委員会
東北視察
- ・北海道生団連 第4回会合
- ・大阪生団連 第5回会合
- ・第52回葛飾区消費生活展へ出展
- ・ぼうさいこくたい2024へ出展
- ・地域生団連 第4弾 中四国生団連の発足に向けて

会員紹介 **We Are SEIDANREN!**

- ・協同乳業株式会社



生団連の使命

国民の生活・生命を守る

生団連の活動指針

- 一、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連業界の健全な発展への貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けます。
- 一、世界的な視点から日本の現状を顧みて、立ちはだかる諸課題に対し、御上頼りになることなく「自ら解決に取り組む先駆け」となることを目指します。
- 一、生産・製造・流通サービスの業界と消費者団体が一体となって大いに研究・議論を尽くし切磋琢磨して、政府・行政の政策運営に対する発言力、提案力、そして実現力の確保に努めます。

2024年10月～2024年11月の生団連の主な動き

10月	3日	大阪生団連 第5回会合	11月	5日	第1回ジェンダー主流化委員会
	7日	ジェンダー主流化 第2回企業分科会 最終日		7日	内閣府 経済財政白書講演会
	8日	第11回外国人の受入れに関する委員会		13日	第12回新・災害対策委員会
	12日～ 13日	葛飾区消費生活展 出展		15日	第12回エネルギー・原発問題委員会
	23日～ 25日	東北視察		19日	プラスチック問題 勉強会
				21日	第15回消費者部会
				26日	埼玉生団連 第2回現地視察会

2024年12月以降の生団連の活動予定

12月	6日	2024年度第3回常務理事会・理事会
-----	----	--------------------

埼玉県 宅配を1回で受け取ろうキャンペーン

埼玉生団連は、埼玉県 大野知事をはじめとする「強い経済の構築に向けた埼玉県戦略会議」の構成団体や行政、物流事業者、消費者団体らと共に、9月3日、「埼玉の持続可能な物流の確保に向けた共同宣言」を行いました。持続可能な物流の確保に向けた機運醸成や消費者の行動変容を目指す一環として、「宅配を1回で受け取ろうキャンペーン」(再配達削減)を実施しております。



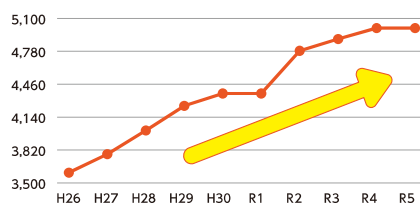
宅配を1回で受け取ろうキャンペーン

あなたにピッタリな
受取方法を選んで、
みんなで
“再配達”を減らそう!



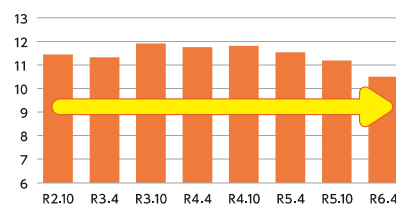
再配達のいま

10年間で取扱個数は1.5倍に!



宅配便取扱個数の推移(百万個)

再配達率は11%前後で高止まり



再配達率の推移(%)

再配達の何が問題?

長時間労働やドライバー不足のほか、宅配トラックからのCO₂排出増加による地球温暖化への影響など、社会問題の原因となっています。

再配達による
ドライバーの労働力は
約6万人/年に相当

再配達によるCO₂排出量は
約25.4万t/年に相当
※全国データ

出典：国土交通省「宅配便の再配達削減に向けて」より

再配達削減は
SDGsにも貢献!



23団体で「埼玉の持続可能な物流の確保に向けた共同宣言」を実施し、再配達削減に取り組んでいます。

共同宣言団体
23団体

埼玉県、財務省 関東財務局、厚生労働省 埼玉労働局、農林水産省 関東農政局、経済産業省 関東経済産業局、国土交通省 関東運輸局埼玉運輸支局、一般社団法人埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、一般社団法人埼玉県経営者協会、埼玉経済同友会、一般社団法人埼玉中小企業家同友会、一般社団法人埼玉銀行協会、国立大学法人埼玉大学、日本労働組合総連合会埼玉県連合会、埼玉県消費者団体連絡会、埼玉生団連、一般社団法人埼玉トラック協会、埼玉県倉庫協会、ヤマト運輸株式会社 北関東総括、佐川急便株式会社 北関東支店、日本郵便株式会社 関東支社、日本貨物鉄道株式会社 関東支社

ジェンダー主流化 第2回企業分科会4日目 開催

10月7日(月)ジェンダー主流化 第2回企業分科会4日目(最終日)を開催しました。

4日目を迎えた企業分科会は、20企業・20名の方にご参加いただきました。最終日となった今回は、冒頭大崎麻子様から「社外のステークホルダーへの働きかけ・協働」と題して、自社だけの施策では難しい・生団連を通して政府なども含めた社外への働きかけの必要性を解説いただきました。

ワークショップでは、各グループが「政府・行政機関」「生団連全体」「教育機関」などの各ステークホルダーに対して、生団連から働きかけてほしい、という「生団連への宿題」について検討しました。



▲大崎麻子様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)
1日目、4日目講師



▲グループ討議の様子

発表では、ワークショップで各グループのまとめた上記「生団連への宿題」とともに、これまでの分科会で「システム思考」を用いて思考した「各社の課題および解決に向けたTOPへの依頼事項」を参加された各企業の役員、上長の皆様に対して、発表いただきました。

発表を聞いていただいた各社役員、上長の皆様は、各々発表者の検討要請をしっかりと受け止め、ジェンダー主流化を企業内で進めていくために、惜しみないご支援をいただける旨、力強い激励のお言葉を頂きました。



▲会場の様子



▲只松観智子様(株式会社Think Impacts代表取締役)
2日目、3日目講師

最後に、塩澤賢一座長より、「このジェンダーの課題は、資本市場の中で経営者も様々なプレッシャーのある環境である。4回の分科会を通して、参加者の皆様が様々な問題をあぶり出していただいたと思っている。11月5日に開催する『ジェンダー主流化委員会』でも、頂いた『生団連への宿題』について議論を深め、皆さんのお力をお借りしながら、実現に向けしっかり進めていきたい」とのお話をいただきました。



塩澤座長(アサヒビール株式会社取締役会長)▶

第1回 ジェンダー主流化委員会 開催

2024年11月5日(火) 14:00～16:00 会場(ミーティングスペースAP東京八重洲)&オンライン 開催

今年度の活動進捗状況と今後の活動の方向性について報告・議論を行いました。



▲塩澤座長(アサヒビール株式会社取締役会長)



▲会場の様子



▲萩原 なつ子 様
(独立行政法人国立女性教育会館 理事長)

独立行政法人国立女性教育会館 萩原 なつ子 理事長

講演 『ジェンダー平等に向けた課題』

ジェンダー不平等の背景には、アンコンシャスバイアスや価値観、制度、慣習などのジェンダー規範などがある。これらの差別や偏見は家庭や教育、メディアなど様々な場面で無意識・無自覚のうちに刷り込まれるため、これらのバイアスの低減が必要。人生の4つのワーク(家庭・有給・学習・ギフト)を性差なく、偏らずそれぞれの人生に取り入れていくことが肝要。最後に、性差なく自ら持つ力を平等に発揮できる社会を実現するために共に頑張りましょう、とエールをいただきました。

事務局より報告・提案

【24年度活動進捗報告】

- 企業分科会による問題の洗い出し
 - ・トップを巻き込んだ個社課題への提案・提言
 - ・外部の巻き込みが必要な社会的問題解決視点
- 論点整理からの各分野インプット
 - ・有識者面談や講演、好事例取材 実施

【24年度活動について提案】

- 経済、生活分野を中心にした活動
 - ・経済・生活・政治行政・教育の4分野で取り組む
 - ・上記のうち、経済・生活分野を最優先として活動する
- 第2回委員会までの取組計画
 - ・委員会意見を反映した取組立案

出席者ご意見 ※抜粋

- ・あらゆる年代に染みついているバイアスの勉強会は、幅広い年齢層を対象にしてほしい。
- ・マジョリティとマイノリティをどうフラットにしていくか、という視点で進めるとLGBTQ+も包含できる。
- ・ゲーム性を持たせた研修会は面白い。概要とゲーム性を掛け合わせたプログラムが良いと思う。
- ・無償ケアワークを筆頭に企業では難しい課題解決は、生団連の強みを活かし共に解決したい。

【事務局所感】

本日頂いた多くの示唆について、事務局内で整理し、生団連の強みを活かせるかたちで今後の活動に反映してしていきたい。

東北視察 1日目

視察1日目は岩手県で4つの施設を見学しました。

- 旧気仙中学校
- 東日本大震災津波伝承館いわてTSUNAMIメモリアル
- 奇跡の一本松
- 陸前高田ユースホテル



【旧気仙中学校】

気仙川の河口付近に位置した中学校。津波が堤防を越えてからわずか数分で14.2mの津波が到達し、3階建ての校舎は全壊。しかし、日頃からの学習と訓練、そして発災時の柔軟な避難対応もあり、生徒・教職員共に犠牲者を一人も出さなかった。その為、「防災教育の重要性を伝える遺構」と評価され、震災遺構として保存されている。



【東日本大震災津波伝承館 いわてTSUNAMIメモリアル】

東日本大震災の記憶を後世に伝承すると共に、復興の姿を国内外に発信することを目的に設立。三陸地方の津波被害の歴史、事実、教訓、復興の4つのゾーンで構成される。

【奇跡の一本松】

高田松原にあった約7万本の松林で唯一大津波に耐えた姿から「奇跡の一本松」と呼ばれており、復興への希望の象徴として震災遺構とされている。



【陸前高田ユースホテル】

津波で建物の一部は倒壊したものの、奇跡の一本松と同じく「希望の象徴の遺構」とされる。この施設が防波堤の役割を果たした事が一本松が流されずに残った理由とされている。

【事務局より】

損壊した建物から津波の恐ろしさを改めて感じました。また、旧気仙中学校の教訓から日頃からの災害への備えと避難時の臨機応変な対応の重要性を再認識しました。

東北視察 2日目

視察2日目は宮城県で3つの施設を見学しました。

- 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
- 石巻市震災遺構 大川小学校
- みやぎ東日本大震災津波伝承館



【気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 見学】

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的としている。当日は映像と展示を通じて、津波の破壊力、被害の大きさ、避難の状況等を学んだ。見学の最後には、各自が「感じたこと・伝えたいこと」を記録し、東日本大震災の伝承について一人ひとりが考える機会になった。



【石巻市震災遺構 大川小学校 見学・語り部講話】

大川小学校では、震災により児童・教職員84名が死亡または行方不明となった。校舎は、震災遺構として保存。見学では、震災で大川小学校に通っていたお子様を亡くされた遺族の方から「大川小学校津波事故訴訟」の概要を含めて講話をいただいた。災害に対する備えは決して疎かにしてはならない、マニュアルはつくるだけでは意味がなく、「行動」につながらなければならないというお話は、広く伝承すべき教訓であると感じた。



【みやぎ東日本大震災津波伝承館】

みやぎ東日本大震災津波伝承館は、東日本大震災と同じ悲しみと混乱を繰り返さないために、震災の記憶と教訓を長く後世に伝え継ぐとともに、県内の震災伝承施設等へ誘うゲートウェイの役割を果たすことを目指している。教訓等を語る映像は79団体90名の方が出演しており、様々な立場から震災や復興を考えることができた。

【事務局より】

各見学場所では、スタッフ・語り部の方に丁寧にご説明をいただきました。私たちは、災害・防災について考えると同時に、震災を伝承するためにご尽力される方々にも思いを馳せ、敬意を持たなければならないと感じます。被災地視察という貴重な経験をさせていただいた者として、伝承のあり方、震災との向き合い方を考えていきます。

東北視察 3日目

視察3日目は福島県で4つの施設を見学しました。

- 浪江町立請戸小学校
- 中間貯蔵工事情報センター
- 東日本大震災・原子力災害伝承館
- 東京電力廃炉資料館



【浪江町立請戸小学校】

請戸小学校が位置する請戸地区は、津波による死者127名、行方不明者27名と多くの犠牲者が出た。

請戸小学校は海から300mのところに位置し、地震発生から40分後に津波に襲われた。

当時の校舎には下校した1年生11名を除く児童82人が校舎に残っていた。

1.5km離れた大平山へ避難し、児童・教員の全員が無事だった。



【中間貯蔵工事情報センター】

中間貯蔵施設とは福島県内の除染に伴い発生した除染土壌や廃棄物等を貯蔵する施設。

東京電力福島第一原子力発電所を取り囲む形で、大熊町・双葉町に整備している。

全体面積は16km²、東京ドーム340倍の広さがある。

震災前には約950世帯が住む地域だった。

中間貯蔵施設には1,400万m³もの土壌等が運び込まれ、最終的には、貯蔵開始30年以内に県外搬出することが定められている。



【東日本大震災・原子力災害伝承館】

東日本大震災による、福島県内の犠牲者は4,100人以上で、このうち、避難生活での体調変化や過労等間接的な原因でなくなる「震災関連死」は2,300人を超え、福島が経験した複合災害の過酷さを物語っている。

現在も原子力災害により、福島県では25,000人以上の方が故郷を離れた生活を強いられている。

【事務局より】

福島が経験した「複合災害」を学ぶことで、改めて「東日本大震災」は14年を迎えようとする今も終わっていないことを実感しました。

また、除染土の県外搬出については国民への認知不足が重要な問題であり、生団連としても意識喚起活動を行うことができるのではないかと考えました。

北海道生団連 第4回会合

9月27日(金)北海道生団連 第4回会合を、TKPガーデンシティ札幌駅前 ホール3Eにて開催いたしました。



▲渡辺 裕子 会長(公益社団法人札幌消費者協会 会長)



▲会場内の様子

北海道生団連**10会員・10名の方々**にご出席いただきました。

冒頭、渡辺会長から、本年は食料安全保障について重要な転換期であると認識し、本年度の活動を「食料安全保障」の人材確保に絞り、これに向けてどのように活動していくべきかを議論していきたい旨のご挨拶をいただきました。

会合前半では前回までの振り返りと、分科会でのご意見も含めた課題に対しての事務局整理を報告いたしました。



▲公益財団法人北海道農業公社 担い手本部長 白旗 哲史 様

公益財団法人北海道農業公社 担い手本部長 白旗 哲史 様より『新規就農者の獲得に向けた施策と、担い手の育成に向けた施策』についてご講演いただきました。

北海道の農業の現状や、担い手育成センターを通した新規就農者支援、相談窓口の拡充による就農希望者に向けての支援の取り組みの紹介がありました。

また新設した「北海道農業経営相談室」による農業者の多様な経営課題への支援、「6次産業化サポートセンター」での相談対応や専門家による助言指導などを行っているとのことでした。

北海道の農業を取り巻く現状と、担い手の確保・育成に向けた公社様のお取り組みを知ることができました。

今回の議論として就農前と就農後に人材確保の課題を整理し、その課題について各社のお取り組みについて発言をいただきました。

【出席者からの発言(抜粋)】

- 自社では就職する人に向けて、他社との違いの明確化、給料・福利厚生・会社の将来性、全てを合わせた魅力的な会社を目指している。そのためには、企業も消費者も世の中も三方よしの営業利益を作ること。世間の役に立ちながら利益を得て、限られた時間で効率の良い仕事をするに繋げる必要がある。これは農業も同様である。
- 就農希望者は農業に就くための1～2年の研修期間で、農業の厳しさを理解する必要がある。就農の際に必要な投資や準備などのサポートを町で行っている。
- 農業の魅力を上げる手段として、企業の農業参入がある。企業参入によって農業の持つ課題に対して関与できる幅が広がるのではないかと。
- 新規就農者の4割が道外の出身というデータがあり、この層に伸びしろがあると感じた。
- 日本の食料自給率が38%という状況下では、米不足報道など些細なことで国民が混乱してしまう。北海道は201%の自給率があり、その内の約100%を道外もしくは海外に輸出するという取り組みをPRしなければならないと考える。

大阪生団連 第5回会合

10月3日(木)大阪生団連 第5回会合を、ハートンホール日本生命御堂筋ビルにて開催いたしました。



▲山口 典子 会長(堺市消費生活協議会 会長)



▲木藤 哲大 副会長(日本ハム株式会社 取締役会長)

大阪生団連の会員企業・団体様より、**19会員・24名の方々**にご出席いただきました。

冒頭、山口会長より、生団連と各企業、皆様とともに力を合わせて新しい消費社会・企業社会を創造していくことを目的として活動していきたいという旨のご挨拶をいただきました。

その後、木藤副会長より、災害が非常に多い一年であり、地域社会と共にリスクをしっかりとらえて対処していきたい。外国人の受入れについては、各社の課題も意見いただいたうえで、採択、賛同にむけて議論していきたいという旨、お話をいただきました。



▲堺市危機管理室 危機管理監 久保様

災害に関しては、堺市危機管理室 危機管理監 久保様より『堺市における危機管理体制』について、

- 1.堺市における危機管理に関する主な施策について
- 2.能登半島地震への災害支援からの気づきと南海トラフ巨大地震への備えとして大阪で活かすべき教訓
- 3.地域の事業者として取り組むべき、備えるべき防災対策について

のテーマで講演いただきました。

実際の支援から災害支援における男女共同参画や多様性の視点の重要性、地域住民と事業との連携の必要性を再認識することができました。



▲会場内の様子

外国人の受入れに関しては、大阪生団連の基本指針への採択・賛同状況をご報告し、採択・賛同を増やすべく活動していくことを提示しました。

また就労については、「技能実習制度」が廃止され、新たに「育成就労制度」が導入されることから、事務局として“転籍”への課題感を持っており、各社における外国人の定着への支援の具体的な施策を発表いただきました。皆様日ごろからのお持ちの問題意識の解消にもつながる質疑応答を含め、充実した議論ができました。

第52回葛飾区消費生活展へ出展

10月12日(土)～10月13日(日) 第52回葛飾区消費生活展が開催され、生団連も出展いたしました。
来場者数延べ約3,500人でした。

「人生120年時代を どう生活(くらす) ～介護福祉、環境問題～」をテーマに、地域みんなで取り組むべき課題を様々な角度からわかりやすく伝えるパネル展示がなされました。

開会式では、白井 恵子 実行委員長が、本年4月にご逝去された東京地域婦人団体連盟 谷茂岡 前会長のご後任として登壇され「人生120年時代において、地域全体でいかに安全・安心な生活を守るべきか、消費者一人一人が問題意識を持ち、知恵を出し合う必要がある」と、消費生活展の意義を話されました。

さまざまな消費者問題や災害対策に関する展示が行われていました。生団連では、食品ロス削減、気候変動、プラスチック問題の3つの研究課題を連携させ、ポスターの掲示などを通じて区民の方々と生活者視点で学びを深めました。



▲白井 恵子 実行委員長 オープニングセレモニーの様子



▲生団連出展ブースの様子

生団連 プラスチック問題
プラスチックは現代社会に不可欠な素材です。しかしプラスチックは環境問題も引き起こします。解決するためには循環型社会への移行が必要です。プラスチックを知って、減らして、リサイクルしましょう！

①プラスチックはどこで使われている？
台所用品や食品包装、おもちゃ等プラスチックの用途は多岐にわたります
●家庭・台所用品 ●食品容器 ●文具・おもちゃ類

②プラスチックのリサイクル方法
3つのリサイクル方法があります

③1人1人ができること
自治体のルールを守って、ごみ出ししましょう
プラスチック製容器包装(プラマーク)

▲プラスチック問題 掲示物

生団連 地球温暖化問題
次の世代に住みやすい地球を残すため身の回りのことから、始めませんか？
温暖化が最も進めば、真夏日が2100年に約53日増えと書かれています

日本の真夏日の日数は
どうなるの？
2100年までに
真夏日は約4.6倍
増加する

2100年の天気予報はこうなる！
真夏日 = 最高気温30℃を上回る日
東京は49日→105日！
埼玉県熊谷市：45℃越え！

1人1人ができること
デコ活に存じますか？ 二酸化炭素(CO2)を減らす「脱炭素(Decarbonization)」止。
環境に良いエコ(Eco)生活を意味する「活」を組み合わせる国民運動です

▲気候変動 掲示物

【参加された方からの食品ロスに関するお言葉】

- 事業系食品ロスと家庭系食品ロスの量がほぼ同じということに驚いた。事業者が削減に取り組んでいる中で、私たちも必要な分だけを買うことが大切だと感じた。
- 賞味期限と消費期限は名前が似ていて区別がついていなかったが、今日のブースを見て詳しく知ることができた。

ぼうさいこくたい2024へ出展

10月19日(土)～20日(日)ぼうさいこくたい2024が開催され、生団連も出展いたしました。

【ぼうさいこくたい2024開催概要】

ぼうさいこくたいは、毎年多くの防災に関する活動を実践する団体・機関が出展し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベントであり、新・災害対策委員会の活動として、昨年に続き出展いたしました。

会場は熊本県の熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場の3会場で開催され、第9回目となる今回は出展者数が過去最高となる約412団体・機関、総来場者数は約17,000人と全国各地から多くの方が参加されました。各ブースでは、自組織の防災取組や災害対策について、紹介されておりました。



▲ぼうさいこくたい各会場の様子

【生団連ブース出展内容】

生団連のブースでは、防災マニュアルブックの配布、防災マニュアルブックの内容をクイズ形式でわかりやすく解説したパネル展示を行いました。

今年度は解答欄を隠すことができるようにし、クイズをより楽しむことができる仕様に変更しており、来場された方からもご好評いただきました。

防災マニュアルブックにつきましても多くの方に手に取っていただき、大会期間で計800部配布させていただきました。引き続き、防災意識啓発のツールとして活用させていただきます。

また、多くの出展者とも情報交換をすることができ、外部リレーション強化にも繋がる活動となりました。

今後もイベント参加や情報発信を通じて、防災啓発に向けて皆様と取組んでまいりたいと思います。

イベントで配布した防災マニュアルブックは、会員向けに無料で手配しておりますので、自組織の従業員へ配布したいなどのご要望がありましたら、お気軽に事務局までお問い合わせください。



▲生団連出展ブースの様子



▲配布した防災マニュアルブック

地域生団連 第4弾 中四国生団連の発足に向けて

中四国生団連 起案趣旨

地域生団連第4弾として、香川(1)・徳島(0)・高知(1)・愛媛(7)・岡山(6)・広島(9)・島根(0)・鳥取(0)・山口(3)を範囲とする**中四国生団連(既存会員26企業)**を発足する。

これまでの都道府県単位での発足から地方単位への発足へと方針転換した最初の設立となる。

地域課題として、①急速な人口減少(高齢化)に伴う外国人人口比率の増加 ②南海トラフ沖地震の被災想定地域であり、災害支援体制の構築および平時の備え ③原子力発電施設(伊方原発:愛媛)の再稼働に伴う地域住民の期待と不安など、全国生団連の重点課題とも親和性の高い地域課題があり、そのような課題に対して、地域にて議論し、当地選出の国会議員とも連携を図りながら民主主義のベースキャンプとして機能させる。

■新規会員企業・団体ご紹介のお願い■

会員の皆様から中四国に基盤を置く企業様・貴社分社(又は営業所)・団体様を是非ご紹介いただきたく存じます。企業窓口となられる方をご紹介いただけましたら、そこからは事務局より生団連・中四国生団連の趣旨等をご説明させていただきますと考えております。

お力添え賜れます場合は、ご紹介先の企業・団体の以下の事項をご記入の上、jimu@seidanren.jpまでご連絡ください。

■企業・団体名

■所在地

■ご紹介先様のお名前・所属部署・役職

■ご連絡先(お電話・メールアドレス等)

事務局員紹介



小佐野 寛崇 (株式会社ゼンショーホールディングス)

10月16日付けで事務局に着任いたしました小佐野寛崇と申します。重点課題「有事における国民的危機への対応」を担当いたします。国民の皆様の生活を守るため不惜身命で取り組んで参ります。よろしくお願いいたします。



協同乳業株式会社



協同乳業株式会社

協同乳業株式会社

【会社概要】

- 代 表 者：宮崎 幹生
- 設 立：1953年12月
- 主 な 事 業：牛乳、アイス、デザート、
乳製品の製造、販売
- 所 在 地：〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町17番2号
- 電 話 番 号：0120-369817
- U R L：https://www.meito.co.jp/



協同乳業株式会社



自然の輝きに、おいしさそえて。

“酪農と乳業の共生”の理念が目指すもの

協同乳業は1953年に酪農家と農協、企業が一体となって設立されました。創業理念は「酪農と乳業の共生」です。酪農家が生産する乳の持つ価値を最大限に生かした商品を消費者に提供することで、健康で豊かな食文化を創造するとともに、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋となることを目指しています。

酪農家の営みを支える獣医師

協同乳業独自の取り組みとして、社員獣医師による診療活動、酪農家支援を続けています。酪農家が安心しておいしい生乳を搾れるよう、牛の健康管理はもちろん、エサの配合や与え方、牛舎の環境整備のアドバイスなども行います。酪農家それぞれの想い、やり方に寄り添い、良質な生乳の生産を支えています。

牛乳のチカラと腸内環境を追求する研究開発

研究所では、腸内フローラの未知なる可能性を探索しています。研究成果は査読付き国際科学ジャーナルへ論文として発表し、なかでも「腸内細菌叢の代謝制御技術の構築とそれを利用した健康長寿伸長食品の開発」は世界的に評価されています。数多くの研究機関との共同研究を進めており、科学的エビデンスに基づいたオリジナル食品の開発に取り組んでいます。

新しい食文化を創造する

1955年、日本で初めて本格的なアイスクリームバーの大量生産を開始し、1960年には爆発的なヒット商品となる「ホームランバー」を発売しました。



さらに1981年には、日本初の本格的なカスタードプリン^{カスタードプリン}の工業化に成功。このように時代に先駆けた挑戦的な商品開発が、ブランドの信頼を支えています。

自然の恵みを大切にする原点は大切にしつつも、そこに今日の価値を付加して、お客様にワクワクしていただける商品を作ることをテーマに、お客様にとって価値ある製品をお届けしています。



農協シリーズ



■農協牛乳

酪農家が1年365日じっくり育んだ自然の恵み“生乳”。そのおいしさをありのままに伝える農協牛乳には、「独自の技術」と「こだわり」が込められています。“愛情をもって乳牛を育て、まごころこめて生乳を搾り、自然のままのおいしさを味わっていただきたい”農協牛乳は、そんな酪農家の想いを込めた「自然のおいしさ」を毎日の食卓にお届けします。

■農協果汁

国産果汁のみを使用した「安心」、こだわりの搾汁方法による果汁の「おいしさ」、生産者・JAとのつながりをコンセプトに「フードロス削減」など、青果物の農業を未来につなぐ役割を担っていきます。

■農協ヨーグルト

自然豊かな信州の地で酪農家が家族のように大切に育て、協同乳業の獣医師が健康を見守る、健やかな乳牛から搾った良質な生乳だけを使いました。なめらかでミルクのほのかな甘味やコク、味わいを楽しめます。

■農協ミルク

フードロス削減につながる国産果汁の選択や生乳の特性を活かした製法を採用した乳飲料です。たっぷりの生乳と国産素材のバランスにこだわった「農協ミルク」ならではのクセになるあまさをお楽しみいただけます。

メイトーブランド



■しなやか血管サポート(LKMヨーグルトBV)

長年の研究成果を形にした、血管や血圧に悩みを抱える人
 におすすめの機能性表示食品です。ほんのり甘く、毎日続
 けやすい味わいのヨーグルトです。

■カスタードプリン

卵、生乳、砂糖の素材の味を大切に、卵と熱の力で固める本格蒸し製法で作りました。卵らしいプリッとした食感と、口の中でとろける食感の両方を味わうことができます。

■なめらかプリン

風味豊かな生乳と卵を使い、じっくり丁寧に蒸して固めた、なめらかな口どけが特徴のプリンです。クセになるなめらかさが多くの人に愛され、今年発売25周年を迎えました。

■ホームランバー

来年で発売65周年となる超ロングセラー商品です。
 これまでも、これからも、当たりつきのドキドキ・ワクワク感
 をお届けします。

■フローズンヨーグルト

協同乳業独自の技術を活かして作り上げた、乳酸菌が生きている“発酵乳規格”の本格フローズンヨーグルトです。クセになるサクッとした食感と、何度でも食べたくなるようなさわやかな味わいをお楽しみいただけます。



発行:国民生活産業・消費者団体連合会
発行日:2024年12月1日

〒108-0075 東京都港区港南 2-18-1 JR 品川イーストビル18階
電話 (03)6833-0493 / FAX (03)6833-0494 / E-mail: jimu@seidanren.jp
ホームページ:<https://www.seidanren.jp>